

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について(牛久市)

<結果の概要>

◇小学校国語

学習指導要領の6つの内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれから出題がありました。「言葉の特徴や使い方に関する事項」のみ、全国平均よりわずかに低くなっています。他の5つの内容については全国や県と比べて平均正答率が高くなっています。

内容	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
言葉の特徴や使い方	◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについては、65.9%の正答率で国や県の平均正答率を下回っています。書く目的や意図に応じて自分の思いや考えを伝えるためにも適切に漢字を使い分ける力が身に付くようにすることが大切です。
情報の扱い方	◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことについては、68.1%の正答率で国や県の平均正答率を上回っており成果が見られるものの、さらに努力を要する状況です。目的や意図に沿って、線でつないだり囲んで整理したりすることによって自分なりに情報を整理できるようにすることが大切です。
我が国の言語文化	◇日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことについては、平均正答率が82.5%とおおむね満足できる状況です。
話すこと・聞くこと	◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することについては、60.4%の正答率で国や県の平均正答率を大幅に上回っており成果が見られるものの、さらに努力を要する状況です。目的や意図に応じて、聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが大切です。
書くこと	◇図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、平均正答率が85.0%とおおむね満足できる状況です。
読むこと	◇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることについては、45.1%の正答率で国や県の平均正答率を上回っており成果が見られるものの、さらに努力を要する状況です。実生活において、図表を含む様々な情報の中から必要な情報を見付けるために、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切です。

◇小学校算数

学習指導要領の4つの領域「数と計算」「図形」「測定/変化と関係」「データの活用」から出題があり、いずれも全国や県と比べて平均正答率が高くなっています。

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
数と計算	◇小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることについては、平均正答率が81.0%と国や県の平均正答率を大幅に上回り、おおむね満足できる状況です。 ◆分数の加法について、共通する単位分数と共通する単位分数の幾つ分になるかを数

	<p>や言葉を用いて記述することについては、無解答率が 20.8%と高く、さらに努力を要する状況です。数の表し方の仕組や数を構成する単位に着目し、共通する単位分数を見出すことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切です。</p>
図形	<p>◇角の大きさについての理解は、平均正答率が 81.7%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述することについては平均正答率 40.6%と、国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。既習の求積可能な2つの図形を見だし、面積を求めるために必要な情報を自ら選び出し、2つの図形のそれぞれの求め方を筋道立てて考察することが必要です。</p>
測定 変化と関係	<p>◇伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことについては、平均正答率が 83.6%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率 43.8%とさらに努力を要する状況です。日常生活で、「10%増量」「30%引」などの百分率が用いられる場面において、「～倍」を使って捉え直し表現できるようにすることが大切です。</p>
データの 活用	<p>◇棒グラフから、項目間の関係を読み取ることについては、平均正答率が 80.4%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することについては、国や県の平均正答率を大幅に上回っているものの、平均正答率 42.1%とさらに努力を要する状況です。目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉えることができるようにすることが大切です。</p>

#### ◇中学校国語

学習指導要領の4つの内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」から出題がありました。全ての内容について全国や県と比べて全体の平均正答率が高くなっています。

内容	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
言葉の特徴 や使い方	<p>◇文脈に即して漢字を正しく使うことについては、35.3%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うようにすることが大切です。</p>
話すこと・ 聞くこと	<p>◇相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することについては、平均正答率が 84.9%と国や県の平均正答率を大幅に上回り、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することについては、32.6%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状</p>

	況です。伝えたい内容が適切に伝わるように効果的に資料や機器を活用することが大切です。
書くこと	<p>◇目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることについては、平均正答率が85.8%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、40.0%の正答率で国や県の平均正答率を大幅に上回っているものの、さらに努力を要する状況です。意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが大切です。</p> <p>◆読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることについては、30.2%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるようにすることが大切です。</p>
読むこと	<p>◇文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることについては、平均正答率が93.4%と満足できる状況です。</p> <p>◆文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては、18.9%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握した上で、自分なりの意味付けをすることが大切です。</p>

#### ◇中学校数学

4つの領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」から出題があり、いずれも全国や県と比べて平均正答率が大幅に高くなっています。

#### <中学校 数学>

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
数と式	<p>◇素数の意味の理解については、平均正答率が62.8%と国の平均正答率より+31%と大幅に上回り、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が34.3%、無解答率16.4%とさらに努力を要する状況です。文字を用いた式を使って、ある命題が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったり、計算したりする学習が総合的に行われることが重要です。</p>
図形	<p>◇多角形の外角の意味理解については、平均正答率が71.0%と国や県の平均正答率より大幅に上回り、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が37.1%、無解答率が27.1%とさらに努力を要する状況です。証明の方針を明確にし、証明の見通しを立てていくことが大切です。</p>
変化と関係	<p>◇事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることについては、平均正答率が78.2%と国や県の平均正答率を大幅に上回っており、おおむね満足できる状況です。</p>

	◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、国や県の平均正答率を大幅に上回っているものの、平均正答率が 47.7%、無答率が 23.9%と高く、さらに努力を要する状況です。比例として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現できるようにすることが大切です。
データの活用	◇必ず起こる事柄の確率についての理解は、平均正答率が 80.8%と、おおむね満足できる状況です。

<質問紙調査の結果から>

- ◇「朝食を毎日食べている」小学生(児童)・中学生(生徒)が多くいます。
- ◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が全国・県平均に比べて少ない状況です。
- ◇「これまでに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が多くいます。
- ◆「これまで受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用した」と認識している小学生(児童)は、改善傾向にあるものの全国・県平均に比べて少ない状況です。
- ◆「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が前年度より改善しているものの、国・県平均に比べて少ない状況です。
- ◆「これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が一定数いることから、児童生徒の実態に合った指導がさらに必要な状況です。